

「セラミック外論」の電子化公開によせて

素木洋一先生が著した「セラミック外論」全4巻が、このたび日本セラミックス協会のホームページ上で公開されることとなった。「セラミック外論」は、素木洋一先生が窯業協会誌（日本セラミックス協会の前身である窯業協会の機関誌）に2年余り連載した講座記事に加筆して、全4巻として窯業協会から出版された。「セラミック外論」には陶磁器の原料調整、成型、焼成プロセス、製品の物性について豊富なプロセス・物性データが盛り込まれている。40年以上前の著書であるため、当然、伝統的セラミックが記述の中心であり、ファインセラミックスに関する技術的な記述はほとんどない。しかしながら、“製造ノウハウに内在する勘と経験に頼った不明確部分を、科学としてできる限り明確化し、如何に製造技術を発展させるか”という本書を貫くコンセプトは、対象が伝統的セラミックスであるかファインセラミックスであるかにかかわらず、現在でも十分通用する考えである。むしろ現在では、本書の内容に類するデータやノウハウは、おそらく個々の企業の製造現場にしか存在せず、外部公開されないため、そのようなノウハウやその構築手法に触れて学習する機会が、かえって少なくなってしまうのではないかと思われる。このような背景のもと、日本セラミックス協会出版委員会では、製造プロセスで直面する諸問題解決のためのケーススタディーやヒントとして利用していただくことを目的とし、この歴史的にも技術的にも優れた「セラミック外論」を電子化して公開することとした。

今回の「セラミック外論」復刻が出版企画としてはじめて持ち上がったのは2002年12月の委員会であった。当初委員会では「セラミック外論」を全面改定する方向と初版のまま復刻電子化する二方向が検討された。しかし、現代セラミックプロセスに内容を置き換えて全面改訂する場合は複数著者になることが避けられず、「セラミック外論」に貫かれているコンセプトの統一性とメッセージ性を確保することは不可能との結論に至った。そのため、強いて内容は改訂せず、初版のまま復刻公開してケーススタディーやヒントとして会員に利用してもらうこととした。2003年からは出版委員会電子化WGが電子化の作業方法や解像度の検討を開始した。なにしろ4巻のうち1-3巻は日本セラミックス協会ですらも、1冊づつしか所蔵してない希少書籍であったため、電子化作業はおそろおそろ行われた。まずは、協会に2冊残っていた第4巻のうちの一冊を裁断した。残りの1-3巻はWGの稲垣順一委員のご厚意によって提供されたものを裁断して電子化した。書き込みや汚れの修正、画像の位置あわせ、読者の使い勝手が良くなるような再編集を経て、ようやく公開にまでこぎつけた次第である。

本書が40年の時代を経て再びセラミックスの技術と産業の発展に役立つことを願ってやまない。

2006年9月

日本セラミックス協会 2005年度出版委員長
伊藤 敦夫